当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
1	10月18日(水) 茶屋集会所	私は芦屋の給食を食べたことはありませんが、子どもが自然学校のご飯はあまりおいしくなかったと言っており、普段の給食がどれだけおいしいかありがたみを感じました。食材の価格高騰の中、おいしい給食を維持する栄養士の方は大変だと思いますが、おいしい給食をお腹いっぱい食べることは、成長期の子どもにとって大切ですので、値上げしてでも維持していただけたらありがたいと思っています。	毎年夏から秋の時期に「給食展」を開催しており、抽選で当選すれば誰でも芦屋の給食を食べることができます。是非食べていただければと思います。市内には小学校が８校、中学校が３校ありますが、11校全てで自校調理しており、栄養士も全校に配置しているため、メニューも全校で違います。一見非合理に見えますが、小さい学校であれば必要な食材も少量のため、珍しい食材を使いやすい利点もあります。給食費は、保護者の方々、先生の代表、市職員で構成する委員会で決めているのですが、物価高騰もあり、この２学期から少し値上げをさせていただいています。現在は、小学校では１食おおよそ265円、中学校では306円です。その他の人件費や光熱費、水道費については全て市が負担しており、食材費のみご負担をお願いしている状況です。創意工夫を重ねながら、栄養士の方々が栄養・食材のバランスとおいしさを両立してくださっています。物価高騰は続いていますが、出来る限り現状維持に努めたいと考えています。	令和５年度分については、値上げ分を新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金で賄っており、保護者負担の値上げはありませんでした。令和６年度分より保護者負担をお願いしております。
2	10月18日(水) 茶屋集会所	市長は公立小学校から私立中学校への受験についてはどうお思いでしょうか。私の子は中学受験をして市外に行きました。私立中学校でいろいろな人に会って欲しかったからです。ダイバーシティという言葉が言われていますが、私の地域の公立では小学校は２クラス、中学校は３クラスと、出会える人がそう多くありません。市外の私立学校に行けば１０クラス以上もあります。今の時代はインターネットなど様々なツールを利用して、世界中の人たちと繋がることができますので、そういったものを活用した学びをアピールしていただきたいと思います。	中学受験については、地元が嫌だから市外受験をするということではなく、もっと他の人と勉強したい、この分野を特に勉強したい、などといった前向きな気持ちで学校を選択できればいいと思っています。誰でも中学受験ができるわけではありませんので、みんなが入学できる公立中学校の教育の質を上げることは大事です。学力が上がるだけでいいという話ではなく、人格的に成長でき様々な経験ができる、そういった意味での質を上げていきたいと思っています。現在は中学校でもインターネットを活用し、海外とオンラインで繋がった英語の授業など、新しい手法もいろいろ考えて実施していますので、そういったところも含め、皆さまにアピールできるよう我々も頑張りたいと思います。	
3	10月18日(水) 茶屋集会所	学校でも市長が言う対話の場が増えていくといいと思います。校則の件など、話し合いが始まっていると聞いてすごく嬉しく思っている一方で、「校則に書いてあるからカーディガンは教室では着ていいけど廊下ではだめ」と言う杓子定規な先生からのお答えもあったりと、残念に思う時もあります。今がまさに変わり目だと思うのですが、話し合い、しっかり探究し考えていこうという機会が増えて欲しいと思います。親たちに対するアンケートの機会などもあまり無いと思いますので、作っていただきたいと思います。	先生方も、突然のことで困惑したというのもあると思いますので、長い目で見守っていただけたらと思います。私は中学生に「まずは自分で先生に言ってみたら」と話をしているんです。中学生との対話の際に一番気をつけていたのは、「じゃあ市長がやっとくね」と絶対に言わないことです。市長がやってくれるとなると、言いっぱなし、まかせっきりで終わってしまうと思いますので。やはり試行錯誤しながら、小さいことでも変えることができれば、それが自分の行動で社会を変えたという大きな成功体験となります。そのような場を私たちは創りたいと思っていますので、ぜひ応援していただければと思います。	
4	10月18日(水) 茶屋集会所	市長が代わられたタイミングで、中学校・高校の生徒や近所のママ友たちが、「芦屋市はこういうことやったらいいのに」という話をしているのを初めて聞きました。皆が「こういうことやりたいな」と考えていると思うのですが、そのような時にはどちらに相談すればいいのでしょうか。	多くの市民の方が「こういうことをやりたい」と話してくださっており、とても嬉しく思います。市役所にかかってくる電話は多くがお叱りの電話なので、職員も市民の皆さまと前向きなお話をしたくても、「また怒られるのか」と後ろ向きになりがちです。その中で、「こういうことを一緒にやりませんか」「こういうことを一緒にできて嬉しかったです」という前向きなご意見をいただけるのはすごく励みになります。その際に、「こういうことで力を借りたい」という部分が明確になっていた方が、我々としては動きやすいです。また、職員も抱えている業務が多い中で、対応が難しい場合もありますので、行政に構わず、ある程度先に動いていただいた方が、我々としても応援しやすいです。	リードあしや（あしや市民活動センター）では、学生を含むすべての市民の活動支援や場の提供を行っています。
5	10月18日(水) 茶屋集会所	私の子どもは小学校低学年で、不登校児です。仕事もできず、落ち込んでいればそばにいなくてはなりません。ずっと２人でいると、見守る方のメンタルも崩れてしまいます。そういった状況に行政の手だてはありませんが、どう思われますか。子どもがいつ学校に復帰したいと思ってもいいよう、学校との連絡は常にとっていますが、それができない親御さんもたくさんいらっしゃいます。	芦屋市は小学生の約1.6%、中学生の７%ほどが不登校という状況です。７%とはつまりクラスに２、３人不登校の生徒がいるということです。もはや不登校は、その児童生徒の問題ではなく、社会全体で考えていく課題です。学びづらさを抱えている児童生徒が増えていますが、教育大綱にも書いたように、学校でなくても、まずはちゃんと学びに繋がり続けられる環境が大事です。例えば、打出教育文化センターに「のびのび学級」という学びづらさを抱えたこども向けの特別な教室があります。他にも様々な形で、何とか学びに接続し続ける環境を創りたいと思っています。短い時間でも学びに繋がり続けなければ、本当に学びたいと思った時に、学ぶことに対する習慣や学び方も忘れてしまうこともあると思うからです。不登校児の保護者の方全員が学校と繋がり続けられるわけではありませんので、行政の方でもできることを考えていかなければと思います。	
6	10月18日(水) 茶屋集会所	のびのび学級の見学に行きましたが、小さな子どもは入りにくいように思います。	のびのび学級は中学生対象のイメージがあるかもしれません。先日、のびのび学級の子どもたちとも対話したのですが、そこに来ていない子どもたちとも対話する機会を持てればと思いましたので、考えてみたいと思います。	

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
7	10月18日(水) 茶屋集会所	保育園で仕事をしていますが、卒園したお子さんの保護者の方から不登校の相談をされることも多いです。保育園でのびのびと育ってきたところに、学校の先生が熱心に指導されて引いてしまう、という話も何度も聞きます。先生方は力もあり、勉強もされていると思うのですが、指導方法や子どもとの関わり方もセットで考えていただきたいと思います。不登校に関しては、寝屋川市が先進的なことをされているので、ぜひ参考にしていただければ嬉しく思います。	ご意見ありがとうございます。確認してみます。	
8	10月18日(水) 茶屋集会所	私は発達障がいのお子さんを育てるお母さんや、シングルマザーのお母さんへの支援をハンドマッサージで支援させていただいています。私もシングルマザーで、行政からシングルマザー向けイベントのお便りももらったことがあるのですが、イベントに行って相談する元気もありませんでした。エネルギーが枯渇してしまうと、悩みを打ち明けることもできませんので、行政の手が届かない部分を、ハンドマッサージを通じて何かできたらと思い活動しています。お子さんの支援はお母さんの支援があっての話だと思うので、そういう意味での子育てしやすいまちにしていただけたらと思います。	ご意見ありがとうございます。そうやって行動していただけるのは嬉しいです。	
9	10月18日(水) 茶屋集会所	サービス業をしていますが、日曜日・祝日に保育所がないことを不安に思っています。病気の際には病児保育があり、子どもが小さい頃はファミリーサポートの制度も活用させていただきましたが、大きくなってからは使いにくく思います。平日に働いている方が土日遊べるのは、土日に働いている人がいるからこそだと思うので、そういう方への支援もお願いします。他市では、日曜保育というのもあります。西宮市や東灘区ではしているようなのですが、市内の方が対象です。インターネットで預かっていただける近隣の民間事業者を調べても１～２か所しかありません。	土日に働いている方を応援するためには、土日に働ける保育士さんの確保などといった課題もあり、なかなかすぐにやりますとは答えられませんが、ご意見として頂戴します。ありがとうございます。	土曜日保育は実施しておりますが、日曜日・祝日に働くことのできる保育士の確保などに課題があると考えています。
10	10月18日(水) 茶屋集会所	小学生になる私の子どもが市長を見て政治に関心が出てきました。今ではインターネットでいろいろと調べたり、世界から見る日本の姿を考える機会や、日本がもっとこうだったらいいのにという話をしています。今は髙島市長が行った学校に行こうと勉強を頑張ったりもしています。	私の行った学校に行くことだけがゴールではありませんが、期待大ですね。応援しています。	
11	10月18日(水) 茶屋集会所	ChatGPTを活用すれば、学校でも楽しく新しい学びができると思いますので、先進的な学びを芦屋からどんどん発信してほしいと思います。	学校現場でのChatGPTについては、文部科学省が適切に活用するための指針を出しています。今の子どもたちが大人になる頃は、活用が当たり前になっていると思いますので、どんどん活用していきたいと思っています。教育委員会でも、今後どういう形で活用できるか考えているところです。いい形で取り入れられるよう引き続き考えていきたいと思います。	
12	10月18日(水) 茶屋集会所	始業式の日から何日か短縮授業の期間があり、その後給食が始まりますが、その短縮授業の期間にも給食を食べさせてもらえると、親としても安心感があります。他市ではされているところもあるみたいです。	給食の提供日数は年間で決まっており、その日数を増やした場合、給食費や人件費の上昇など課題も出てきます。保護者負担や予算の課題もありますが、ご意見として頂戴します。ありがとうございます。	
13	10月18日(水) 茶屋集会所	大学を卒業して、いきなり学校の先生という立場になるのはすごくハードルが高いと思います。できれば３年ほど社会経験を積まれた後に、子どもに接していただけると、先生も幅広く対応ができ、子どもたちの安全にもつながるのではないかと思います。	大学を卒業していきなり担任を持つとなると難しいですよね。うまくいかなくて、嫌になって先生を辞めてしまうことになると、すごくもったいないと思います。教職員の採用については、県が管轄していますので、芦屋市ではなかなか手だてがありません。我々から国や県に要望することはできるので、教育委員会と一緒に考えていきます。	

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
14	10月18日(水) 茶屋集会所	先生方は、休み時間中に丸つけをしたり、配膳のお手伝いや、昼ご飯の時間を削って子どもと遊んでいたりと、とてもお忙しそうです。例えば給食だけはボランティアの方が見るなど、先生方がきちんと休息の時間を持ち、メリハリをもって子どもと接していただければと思います。	給食の時間中に休めない理由は、法律で食育の授業の時間として位置づけられているからですが、例外を設けられないか、国に要望してみてもいいかもしれません。一般の社会人の方は昼休みがありますが、学校の先生にはほぼありません。労働基準法を守るための休みは放課後にとっていますが、その時間にも保護者の方からのお電話などの対応でなかなか休めないという状況です。すぐの対応は難しいですが、解決の糸口として頭に置いておきたいと思います。	
15	10月18日(水) 茶屋集会所	西宮市では、例えば今は仕事をしていない教員免許を持っている方や、社会福祉士や臨床心理士などの有資格者の方が子どもの対応をするという、先生の負担を減らす教育サポーター制度があります。芦屋市も取り入れてみてはどうでしょうか。	芦屋市でも「スクールサポートスタッフ」として、何人かお手伝いいただいています。役割分担などの検討を進めているところですので、他市の実例も踏まえながら、引き続き研究をしていきたいと思います。	
16	10月18日(水) 茶屋集会所	スクールサポートスタッフは、民間に外注はできないのですか。	足りない人手を確保するためには、外注でも、直接雇用でも財源が必要となりますので、引き続き考えていきたいと思います。今まさに外注できるかどうかなど、アイデアを出し合い協議しているところです。	
17	10月18日(水) 茶屋集会所	仕事後に子どもに栄養のある食事をあげられるかが心配です。現在、駅前開発を計画されていますが、そこに安価で栄養のあるご飯が食べられる食堂のような場所があればと思っています。具体的には、東京の渋谷区に「CO渋谷」という子育て支援施設の中に「COの食卓」という食堂があります。社会福祉感を出し過ぎず、おしゃれな雰囲気の場を創り、市外の人がいいなと思って移り住んだり、ロコミになって見に来てくれるきっかけになるようなブランディングをするのはどうでしょうか。	子どもを連れて行くのが罪悪感になってしまわないためにも、そういった施設がおしゃれであることはいいと思います。面白い取組だと思いますので、東京を訪れた際に一度見に行ってみたいと思います。JR芦屋駅南地区の公益施設については、市民の皆さんとのワークショップもやっていきますので、その際にもご意見いただけたらと思います。	
18	10月18日(水) 茶屋集会所	学校現場でもっとiPadを活用されてはと思います。コロナ禍での毎日の体温提出などは、それこそiPadであれば一発で提出者が分かりますし、対応した教材があれば、採点の時間も減ります。その他の提出物や日々の連絡などもiPadを活用すれば、先生方も少しは楽になるのではと思います。私の子どもが通う私立中学校では、毎日の授業をiPadで見られるようにしており、不登校の方や、インフルエンザ等で休んだ場合でも授業に参加できるようにされています。 ずっと学校を休んでいると、教室の中の様子が分からず余計に入りづらさを感じると思いますので、いい取組だと思います。	中学校を訪問した際、iPadの活用に対するご意見は出ましたし、iPadを活用したプリント配付についても議論したことがあります。例えば今はミマモルメで情報を共有できますが、保護者全員がスマホを持っているわけではありません。基本をスマホにして一部の方だけ紙で渡す考え方もありますが、一方で「あの子紙でもらってるね」となることもあり得ます。だからこそ皆が持っているiPadを使えばいいという話になるわけですが、iPadには利用ルールがあり、ご提案いただいた内容などは、現状iPadでは行えないルールなので、ルールを変えていかなければなりません。実現すれば、子どもたちを通じて保護者の方に連絡するより、遥かに連絡が行き届きやすいと思いますし、DXの観点からも今後も引き続き考えていきたいと思います。	
19	10月18日(水) 茶屋集会所	神戸市には学年担任制という仕組みがあります。例えば中学校の４クラスを６人の先生でローテーションする仕組みです。新任の先生がいきなり担任を持つのではなく、みんなでひとつの学年を見たり、配布プリントを共有できたり、不登校の対応も責任分担して行うことで、先生方の負担が減るというのを聞きました。良い面ばかりではないのかもしれませんが、参考にしていただけたらと思います。	チーム制のことについては、つい先日議論したばかりです。そこで、実は１つデメリットがあることを知りました。先生の配置数は県によって決められていますが、この仕組みではチーム制にした学年には先生を増やす必要があります。そうなると、図工など専門科目の先生が専門をやめ、学年に追加されることになります。確かにチーム制にした学年は負担が減るのですが、もともと専門科目の先生は複数の学年をみていますので、チーム制でない学年の先生はそれまでの業務に加え、追加で専門科目の授業も行わなければならなくなり、負担が増えてしまうこともあるそうです。議論の場では、課題がクリアできればチーム制も採用したいとの話もありました。結局は、人数をどう増やすかに繋がると思います。時間がかかる話ですが、工夫できる部分はたくさんあると思いますので、引き続き協議していきたいと思います。	

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
1	10月25日(水) 竹園集会所	重度の卵・牛乳アレルギーの子どもがいます。低・中学年の頃は給食の９割が洋食で食べられず、先生の隣で給食を食べていました。栄養士の方には、和食給食の提案もしましたが、「和食だと残されてしまう」と言われていました。高学年の頃に栄養士さんがかわり、逆に９割和食になった結果、皆と一緒にごはんが食べられるようになりました。中学校ではお弁当で安心していたところ、給食が始まってしまいました。アレルギーを持つ子どもにとっては、給食が大きな壁となっています。神戸市の給食はほぼ和食らしいので、芦屋市も教育の場では先輩世代の方たちが食べていたような腸に優しい和食中心にしていただければありがたいです。	給食が始まったことで逆に苦労したという声を今までお聞きしたことがなかったので、言っていただけてありがたく思います。アレルギーの方が増えていることは、大きな課題だと認識しています。「あしやのきゅうしょく」という映画も制作されましたが、芦屋は相当給食に力を入れており、しっかりとアピールしていこうとしています。現在、食材費高騰がある中、食材バランスを保つのが難しく、栄養士の先生も苦労されています。なぜ牛乳を使うかは栄養士の方とお話したことはあるのですが、あの金額でカルシウムを取ろうと思うと、ほぼ牛乳しか選択肢がないそうで、嫌いな子が多いことや、アレルギーのことも把握しているそうなのですが、牛乳を使わざるを得ない、といったお話をされていました。和食に変えていたタイミングもあったとのことですので、改めて話を聞いてみたいと思います。	
2	10月25日(水) 竹園集会所	私の知り合いで京都の料亭の板前さんがいるのですが、その方は地元の小学校に出向いて、だしの取り方を教えたり、京野菜を使った食べ物の説明をしたりする出張授業をされています。生徒の中には「人参が食べられるようになった」とか、「食材に対して興味が出てきた」といった感想もあるそうです。芦屋にも腕のいい板前さんがたくさんいらっしゃると思うので、出張授業形式などで興味づけすれば、子どもたちの和食への敷居も低くなるのではないかと思いました。	芦屋はミシュランを取っている料亭や和食屋がたくさんあるので、似たようなことはやっていたようです。「おだしの会」をしているレポートを読んだことがあるのですが、だしの取り方を知らない子が多い中で、「だしでこんなにも味が変わるのか」と感動している様子もありましたので、そのような機会を作れたらいいですね。学校によるかもしれませんが、中学校の給食では、食べる前に給食の見どころ、こだわり、昔の食べ方などを放送を通じて解説することもしています。そういった形でも興味を持っていただければと思います。	「味覚の一週間」という事業で各校に希望を聞いて味覚の授業を行っております。令和５年度は、精道小学校と潮見小学校で行いました。
3	10月25日(水) 竹園集会所	保育施設で働いていますが、確かにアレルギーがある子どもは多いです。食材を別のものに変えるのも１つですが、やはり子どもにも、自分で食べるものは自分たちで作れるぐらいの自炊力が要ると思います。お母さんも常に側にいるわけではないので、きちんと自分で作れる、もしくは食材を選択できる力を養ってあげることが、大人の役目だと思います。自炊を通じて、フードロスやアレルギー食品の代替食品などをそれぞれの家庭で教えられるようになればと思います。	自分でつくれる・選択できるというのは大事なことですね。私がアメリカにいたときは、宗教上の理由などで友達が食べられないものがたくさんありましたので、一緒に外食に行く時は、友達のアレルギーと宗教は知っておかないといけませんでした。アレルギーがある人は、食品表示を見て食べられるかどうかを選択していますが、他人が食べるものに対しても同じようにできたらいいですね。何らかの形でそういうことを学べる環境ができるといいと思います。	
4	10月25日(水) 竹園集会所	小学生の料理クラブのボランティア活動をしています。楽しく子どもたちと料理する簡単な場ですが、アレルギーの子どもが来たことがあり、そこでお肉アレルギーの代わりにはグルテンがいいと教えられました。大きなことをしなくても、子どもたちが料理に触れる機会があれば、そこにアレルギーの子どもがいればなおさら、代替食品などを考える機会にもなりますし、ご飯を炊く、野菜を切る、といった小さなことでも自炊力がつくと食育にも繋がります。芦屋市でそういう子どもたちが料理に触れる機会が増え、子どもたちが自分で考える力が身につけば、いい方向に向かっていくのではないかと思いました。		
5	10月25日(水) 竹園集会所	子ども医療費助成を18歳まで拡充することはとてもいいと思います。私の子どもが住んでいる自治体では、所得制限が厳しく、ちょっとした風邪でも5,000円ほど費用がかかり、なかなか医者にかかれないそうです。所得制限がないフランスに行きたいと言っていたぐらいなので、今回の話を聞けば、芦屋に来たいと言うと思います。	ぜひ、芦屋に引っ越してくださいとお伝えください。	
6	10月25日(水) 竹園集会所	私たち家族は、髙島市長を追いかけて引っ越してきました。もともと住んでいた所は芦屋市と面積や人口の規模が似たところだったのですが、代々地主が持ち回りで市長を務めてるような所でした。そのような市では若い人が立候補しても、当選は叶いません。市長当選のニュースを見て、引っ越しを決意しました。フランスの話が出ましたが、イギリスやカナダでは医療費が無料です。歯科と眼科は別ですが、出産も無料です。日本と違い、かかりつけ医しか受診できない不便さはありますが、やはり出産や医療費が無料というのはすごく助ります。そういう国は出生率も高いです。財政的に難しいとは思いますが、出産費だけでも無料になれば、子どもを産もうと考える人も多いと思います。	芦屋にようこそおいでくださいました。ありがとうございます！ぜひ長く住み続けてください。	

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
7	10月25日(水) 竹園集会所	お金の問題で受診できない家庭もあると思います。裕福でない家庭は虐待が起こりやすいケースもあります。病院に子どもが無料で行けるだけで虐待なども減るのではないでしょうか。	お金が理由で医療受診できない人を無くそうと、所得制限を設け支援をしてきました。そもそも子どもは収入がないことが多いですので、それを考えると子ども間で差をつけるのはどうなんだ、と所得制限を外すことを考えました。所得制限を外し、対象を18歳に引き上げるだけで、年間２億円以上かかります。必要な時にのみ受診する適正な利用をしていただかないと、この制度は続けられなくなりますので、ぜひ周りの方々にもお伝えいただければ嬉しく思います。	
8	10月25日(水) 竹園集会所	ふるさと納税制度によって別の市に税金が流れている状況をお見掛けしましたが、充実したサービスがあれば、いくらでも納税したいと思えます。例えば子どもが何人以上いたら家族全員無料にする、などと拡充していけば、現役世代の住民も増え、市税も潤ってくるのではと思います。	芦屋市においては、直近で7,000万円のふるさと納税制度による寄附がありました。半分は返礼品代や送料などの経費にあたるので、実質3,500万円の歳入になるわけです。逆に本来市に入るはずだった税金は10億円失っており、子ども医療費にかかる費用の比ではありません。もっと減っている自治体もありますが、その場合は地方交付税などで国からお金が入ってきます。一方、芦屋市は不交付団体ですので、補填されません。税収があるという位置づけではありますが、一方でふるさと納税で９億円減収している状況です。どうか芦屋市への納税にご協力いただければと思います。市でどんなサービスを行っているかが届いていないということは、発信力不足もありますので、真摯に受け止めています。	
9	10月25日(水) 竹園集会所	一人ひとりに合った学びを見つける「ちょうどの学び」に関心があります。学校現場では、なかなか変化に追いついていないところも多いと思いますので、芦屋で学校モデルを抜本的に変え「芦屋モデル」を作って欲しいと思います。教育大綱も拝見しましたが、ICT活用の部分や「ちょうどの学び」について、長期的にどういったビジョンをお持ちなのでしょうか。	私が課題に思っているのは、多くの子どもたちが学ぶ目的をわからないまま授業を受けていることです。「何でこの勉強しているんだろう、この勉強意味があるのかな」と誰しも思うことはあると思うんです。でも本来、自分の興味がある内容と学校で学ぶ内容は必ず繋がる部分があるはずです。例えば、サッカーは好きだけど数学は嫌いな子どもがいたとします。でもＪリーグのチームであれば、どこを狙えば一番ゴールを決めやすいのか数学的・統計的な分析を普通にやっていますよね。理科であれば、人体の勉強で筋肉の動かし方を学べば、自分の体をうまく使えるかもしれません。国語でも、本当にサッカーを勉強する人たちは、名監督の本を読んだりしています。要は、学校で勉強している内容は、自分の好きなことと必ず繋がっています。それに気づかず、覚えさせられているだけと感じていては勉強に興味もわきませんよね。そういった部分を変えていきたい。最終的には一人ひとりが自分の興味から、この分野の勉強をしている目的をきちんと認識することができることが一番大事だと思ってます。 ICT活用については、例えばAIドリルを使えば、習熟度に応じた問題を出すことや、繰り返し間違えている問題を多く出すことができます。技術的にはもう可能で、今後どう取り入れていくかの話ですので、なるべく早く実現できるよう協議していきます。課題としてはやはり、先生がとても忙しいというところです。ただ、教育現場は、あくまで教育委員会が主導していかなければいけません。市長部局は側方支援者として、予算や人事、またビジョンを示すことはできますが、実際に教育を行うことはできません。学校の先生が「やってみたい」と思っていただけるかどうかに尽きますので、まずは先生の働き方改革をしっかり進めたいと思っています。今まさに教育委員会と一緒になって整理しているところです。	
10	10月25日(水) 竹園集会所	あるイベントで先生とお話して、先生が忙しく休みも取れない状況にあることを初めて知りました。先生はいつも優しく元気なので、そういう状況下にあることを保護者はあまり知りません。先生方と保護者が同じテーブルで話をする機会が必要だと思いますし、そういう場で素直に話すことで関係性もよくなっていくと思います。私もそういう活動をこれから芦屋でしていきたいと思います。	忙しい状況を見せたがらない先生もたくさんいますので、保護者の方もなかなか現状を知らないかもしれません。私が先生方にお話を聞きますと、やはり大変な状態のようです。また子どもを預かる中でミスはできないという緊張も相当あるようです。これは保育園や幼稚園も一緒です。この状況はぜひ皆さまに知っておいていただきたいと思いますし、こうやって発信することが一助になればと思っています。本日ご参加いただいた皆さまも、周りの方に伝えていただきたいと思いますし、話し合いの活動をしていただけるのであれば、ぜひしていただきたいと思います。	

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
11	10月25日(水) 竹園集会所	子どもを保育所に預けていますが、先生が足りていないという実感はあります。特に今の時期だと、インフルエンザが流行により別のクラスの先生もヘルプに入ったりと、忙しくしているのが目に見えて分かります。先生たちが子どもたちを思いやる余裕もなくなっているのか、子どもたちが少し委縮してしまっていると感じることもあります。やはり先生方の待遇をよくすることで、人員を増やし、余裕を持って子どもたちに接していただければ、保育所もよくなっていくと思っています。	保育所や幼稚園の話は、結局どうお金をつけるかという話なんです。どの先生にお話を伺っても、人が足りないと仰るので、そうなると人を増やすしかありません。芦屋の場合、国より配置基準を手厚くして、先生1人あたりがみる子どもの数を減らしているのですが、それでも大変です。そうなると、解決策は、税金から入れるお金を増やすか、保育料を上げるしかありません。よく保育料が高いと言われますが、保育料は基準となる額が国で決められており、実は芦屋は国基準から比べると減額をしている状況です。保育料を国基準に近づけてもいいと思われる方がどれくらいいるのか、これからきちんと議論しなければなりませんね。皆さまはどう思われますか。（賛成の挙手多数）国も処遇改善として給料を上げると言ってはいますが、それも微々たる話です。	
12	10月25日(水) 竹園集会所	国の規定は15人に対して先生1人だと思うのですが、自分の子ども1～2人みるだけでも精一杯のところ、30人のクラスであれば1人の子どもがトイレに行きたいと言って先生がついて行けば、その間は30人を1人でみることになりますよね。そういう時に事故が起こる可能性もありますし、親としては心配してしまいます。教育現場には昔ながらのやり方が残っているところも多いのではと思いますので、働き方改革の中で、資料をウェブ化するなど、業務を省けるところは工夫して欲しいと思います。		
13	10月25日(水) 竹園集会所	日本の教員はまず教科の指導、担任、部活の顧問の３つのポジションを兼任していますのでそれだけで時間が忙殺される上、別で会議やレポートの時間が必要で、1日の平均労働時間が10時間を越えることもよくあるらしいです。一方、ヨーロッパなどでは、会議やレポートにかける時間は少なく、教員の勤務時間の80%が授業だそうです。日本教員の教科指導の平均時間は50%にも満たないそうで、そこが大きな問題ではないかと思います。先生はもっと教科指導に集中して、事務仕事などは他の人間が担当できるようにするのが、大きな改革のポイントかと思います。	先生が色々と兼任しすぎているというご意見は、私もそう思っていますので、部活動の地域移行はすぐにでもやるべきだと思っています。もちろんいきなり「部活動は地域移行します。今後学校では行わないので地域のクラブに行ってください。そのため部費がかかります」と言われると面食らうと思いますが、そもそも部活動指導を先生がボランティアでしていることが過剰サービスですし、この現状はなんとかしなければならないと考えています。地域移行の問題点としては、まずは受け皿の団体が少ないという課題に取り組まなければならないのですが、どこかで金銭的負担をお願いしなければならない時期が来ると思います。部活動も教育の一環というのも分かりますが、学校としての優先事項、存在意義は何かということについてもう少し考えていきたいと思います。	
14	10月25日(水) 竹園集会所	子どもが不登校でフリースクールに通っています。積極的に発言する子どもの意見は先生の耳に届きますが、発言できない子どもの意見は届かず、助けてもらえません。行き場がなく、フリースクールに通いだしたら、「フリースクールに行けるんやったら、学校にも来れるんちゃう」と圧をかける教員がいます。今、フリースクールに同級生が増えてきていますが、話を聞くと、同じように、先生から「俺たちは税金で給料をもらっているから、おまえたちは成績を残さなきゃいけない」という圧迫的な授業があったそうです。学校に戻ってこないと分かると、先生から連絡が来なくなりました。教育委員会はいろいろ対応してくださってますが、最終的には学校長の判断になってしまうので、その辺りの改革はいま一つだと思います。お時間があれば、市長もフリースクールの子どもたちの声も聞いていただけたらと思います。	実は一度、市内のフリースクールに立ち寄って子どもたちと話したことがあります。大前提として、学校をよりよく変えていくことは大事ですが、一方で、どうしても学校に合わない子どももいます。もちろん学校が全員にぴったり合ったような環境であれば理想ですが、すぐには難しいと思いますので、より大事なのは学校以外にも、ちゃんと学びに繋がり続けられる環境を整えることだと思います。	
15	10月25日(水) 竹園集会所	打出教育文化センターののびのび学級には、通っていた小学校の元校長先生がいたりと、なかなか話しづらいこともあると思います。教員ではない、診療内科の先生やカウンセラーの方などに相談できる場があれば、不登校が減るのかもしれません。	ご意見ありがとうございます。	

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
16	10月25日(水) 竹園集会所	教育大綱にある、伴走型の教育は大変良いと思いました。ただ教員は県が採用となると、いくら市が環境をよくしても、結局どういった先生が来るかが分かりません。先生の価値観などが子どもに反映されてしまう可能性もありますし、教員の質の確保というのは課題かと思います。この先、公立の学校教育はどうなっていくのか、先ほどの中学校の話などを聞くと、やはり不安があります。保護者からすれば、学校園で何が行われているのかよく分からない現状がありますので、透明性の観点からも、保護者たちが子どもの見守りを行うなど、先生方の力になるシステムがあればいいのではないかと思いました。	先生の質の確保は大事な問題ですが、採用は県の権限で市は関与できません。教職員採用の倍率が下がれば、それだけ質の担保が難しくなりますが、全国的には今は倍率がどんどん下がっており、教師という仕事に魅力を感じる人が減っている状況です。先ほど、先生の声かけで傷ついたというお話がありましたが、そういう話を私がお聞きした場合、基本的には教育委員会に全て共有し、教育委員会が現状を確認するようにしており、そういう１つずつ対応していくことは、これからも続けていきたいと思います。昔は先生といえば「教える人」でしたが、今はどちらかというと寄り添い、一人ひとりと向き合って声をかける、伴走が求められていると思います。先生に求められる資質や能力も変わってきていると思いますので、そのことをこれまで「教える」ことを仕事だと思っていた先生方にどう伝えていくかは、専門家の知見をお借りしながら進めていきたいと思っています。	
17	10月25日(水) 竹園集会所	市内で個別指導塾をしていますが、不登校・発達障がいの子どもがすごく多いです。学校の授業に参加できないけれど、勉強はしていきたいと来られる子どもが多いのですが、その子どもたちと話をする際、やはり先生が忙しすぎて話ができないと言っています。今後働き方改革をする上で、例えば保護者の有志の方や、うちのような塾、スポーツクラブの先生など、地域の大人が一体になって、全員でいろいろな所から見守ることができれば、子どもたちの居場所が出きてくるのではないかと思います。学びの場はやはり学校が一番いいと思いますが、その学校をベースとして、民間でも協力し合っていけるような地域づくりができればと思いました。	学校だけで全ての教育を担うことには限界があると、どの先生も思っているところだと思います。やはり学校と地域が一緒になって、社会で子どもを育てていくことが、これからは大事です。令和６年度から、学校運営協議会という仕組みが本格的に始まります。これは、学校を核に地域の皆さまと一緒になって、地域で子どもを育てていこうという試みで、コミスクやPTA、愛護委員や民生委員・児童委員などと「子どもたちをどう育てていくか」を地域ごとに考えていく協議会です。本日の会で、地域で一緒になって子どもを育てていきたいという思いは共有できたかと思いますので、ぜひ様々な場面で子どもたちの成長を見守っていただければありがたく思います。逆に、行政に助けてほしいことがあった際には、「全部行政にやって欲しい」というよりも「ここまで自分たちでやっているけど、自分たちでは難しい部分が出てきたので助けて欲しい」という話の方が我々も相談に乗りやすく思っています。ぜひこれからも一緒になってやっていければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。	
1	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	小児科勤務をしていますが、子育てが大変だ、と相談に来るお母さんが多くいらっしゃいます。その中で思うのは、お母さんたちが生き生きとしていれば、家庭の中がすごくハッピーになるのではないかということです。お母さんがハッピーであれば社会も変わっていき、子育てが楽しくなると出生率も上がり、死亡率も下がるのではと思っていろいろ考えています。少子化対策ではなく、人口政策としての「生きやすさ」が今後とても大事になってくるのではないかと思い、本日ご参加されている皆さまも少子高齢化と言われる環境の中で、困っていることや課題点があれば聞かせていただければ嬉しいです。	（ご意見を受けて）皆さま何か意見はありませんか。	
2	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	コロナ禍で交流の機会も減ってしまったので、対話集会のようなイベントを増やしていただきたいと思います。今市長はJR芦屋駅南を改善しようと考えておられますが、あの辺りは駐車場等が不便です。例えば、アプリで車が来てくれるライドシェアなどがあるといいと思います。また、せっかく潮芦屋交流センターという良い場所がありますので、小さい頃からグローバルな人たちと交流できるような機会を増やして欲しいと思います。できるだけ無料で交流できる場が増えればいいですね。	下水処理場については、安全面や防犯などの課題がうまくクリアできることが条件なので、難しいかもしれませんが、その他の場所も含めて考えてみます。ご意見ありがとうございます。	
3	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	潮芦屋交流センターは事前予約制で時間制限もあり、なかなか自由に使えませんので、他にいろんな人が集える場所があればと思います。私がもったいないと思っているのが、下水処理場の研修室です。かなり広いので、そういったところを開放して、例えば総合公園で散歩した後に、その部屋で皆さまとお話しできるといったような場ができればと思っています。積極的に活動しているボランティア団体などを核にすれば、いろいろとアイデアが出るんじゃないかと思います。		
4	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	子どもの交流という観点でいえば子育てセンターの「むくむく」は非常に評価が高いです。枠が少ないので、他の方も参加できるように広げていけばいいのではないでしょうか。また、文化庁では、子育て推進のための文化芸術の活用などを推進しています。日本文化を活用した子育てに目を向けてみてはいかがでしょうか。		

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
5	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	何年か前に「わくわく子育て」というアプリを利用していました。子育てに関する情報がまとまっているのですが、少し情報を見つけにくいと思いました。情報の入口としてはいいのですが、詳しい情報を得るには、結局ホームページで検索することが必要でしたので、課題ではないかと思います。	ご意見ありがとうございます。この話題に関連してお聞きしたいのですが、広報あしやのイベント情報は見られていますか。	
6	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	広報あしやを見てはいますが、赤ちゃんや１歳、２歳向けのイベントが多く思います。やはり子育て系の欄やそもそもイベントが少なく思います。開催エリアも偏っているので、なかなか行くのも難しいです。	広報あしやというよりは、イベントの内容や開催エリアが偏っていることが課題かもしれませんね。	
7	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	潮見小学校の児童が下校時に熱中症になったという話が何回かあったようです。子どもたちが下校時に疲れたと思った時に休憩できるような場所があればと思い、教育委員会に「市営住宅の会議室を待機場所にできませんか」といった提案をしたのですが、「難しいからできません」と対話にもなりませんでした。	市役所のイメージは、「堅い」とか、「前例踏襲主義」とか、「すぐ無理と言う」とかがありますよね。私もそういうイメージでしたが、５月に就任してから感じたのは、職員の方はとても真面目だということです。検討の可能性があると思った場合でも、「できるかもしれないので考えてみます」と言うと、変な期待感を持たせてしまう、と考えている職員が多いと感じました。逆に、検討してできなかった時に「いけるかもって言ったやないか」と言われると、それも困るんですよね。職員も悩みながらやってるっているというところはご理解いただければ嬉しく思います。我々も受け身になるのではなく、逆に質問をしたり、率直に意見を言い合えたりするような関係性をどうつくるかということが大事だと思っています。ご意見として頂戴いたします。ありがとうございます。	
8	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	私は仕事上、役所の方と話をすることが多いのですが、人口規模によって、職員のレベルにも差があると思います。人口が多い都市の職員は、職員同士の相談体制がしっかりしていたり、「あの人はあれだけ勉強しているから、自分もやらないと」と切磋琢磨してレベルアップしていく姿勢があったり、また様々な情報に接する機会も多いです。人数が限られているので仕方がありませんが、どうしても10万都市には限界があると感じています。中にはほとんど私が仕事を教えているような自治体もあります。対話する際に、職員だけでなく、市の中にも専門家がいらっしゃるわけですので、そういった方たちと話をしてレベルアップしていただけたらと思います。	限界突破できるよう、ぜひ一緒に考えて取り組んでいきましょう。	
9	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	先生方は市の教育委員会に入ると、ずっとその市の配属となり、例えば保護者の方とトラブルになったとしても芦屋市内を転々とします。これは問題があると思います。市長は教育改革と言われていますが、具体的にはどう教育を変えようとしているのでしょうか。また、教員の方に何を求めて、どうスキルチェンジをしてもらうのでしょうか。	小・中学校の先生は兵庫県が採用しています。他市への異動もある地域もあるようですが、芦屋はほとんど芦屋市内だけとなっており、おそらくこれも県が決めている状況です。教育改革の中で私が今一番大事だと思っているのは、「なぜこの学びをするのか」を理解・納得した上で、学びに向かうことです。なぜ古文や因数分解をやるのか、私を含めた全員が疑問に思ったことがありますよね。理想を言えば、一人ひとりの興味があることとの関連性を伝えた上で学ぶことが一番大事だと思っているんです。例えば、サッカーが好きな子であれば、数学が嫌でも戦術には統計が重要ですし、理科であれば筋肉の動かし方を学べますし、名監督の本を読もうと思えば国語能力は大事です。そのように本来学びは好きなことと繋がっています。それをどう繋げていくか、公立学校の中で実現したいと思っています。そのためにまず先生の働き方を改革し、子どもと向き合う時間を確保することが大事です。方法としては２つあると思っています。AI等を用いて先生でなくてもできることが整理された体制をつくること、そして先生の負担を減らすことです。前者は、技術革新も待たれるところですが、後者は今すぐとりかかれます。芦屋の場合、例えば集金の管理なども先生が担当していますが、別に先生でなくてもできますよね。そういうところを整理し、分担を見直すことはすぐにやりたいと思っており、まさに見直しを進めてほしいと教育委員会にも伝えています。スキルチェンジの話ですが、教師は「教える師」と書きますが、今後は「教える師」ではなく、いかに伴走し、寄り添う存在になるかというのが大事になってくると思います。「教える」ことがうまい動画などはもうYouTubeなどにたくさんあります。教える力ももちろん大事ですが、子どもたちの主体性を尊重し、寄り添い、応援することを身に着けられるような取組や環境づくりをしていきたいと思っています。まず負担を減らすことから始め、その上で新しいことに取り組んでいくイメージで捉えています。	

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
10	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	芦屋市の３つ中学校には全て校区があり、校区外の学校に行くには条件があります。部活動や人間関係など、学校生活をいかに過ごすかというのは非常に大事ですので、住んでいる地域に縛られるのではなく、選択肢を柔軟にしてはどうかと思います。また、先ほど小学生が熱中症になったという話もありましたが、小学生も必ずしも一番近い小学校に通える訳ではありません。一方で、一部地域では２つの小学校から選べる場合もありますので、そのエリアをもうちょっと広げてほしいと思います。余分な通学時間が積み重なれば膨大な時間になります。バスの路線や時間を考えるのも大変です。芦屋病院の周遊バスのように、小・中学生を対象としたスクールバスのようなものはできないでしょうか。	この件について、教育委員会と話したことがあります。通学時にできるだけ大きい道路を渡らないように考慮されているようです。また、学校を選べる範囲を広げたり、どこでも選べる形にした場合、入学数の予測が立たず、人事配置の面から困ることもあり、ある程度校区を定めることで予測を立てているそうです。今はそういう状況ですが、今後、各中学校ごとに部活動を持てなくなった場合などに、中学校間をどうやって移動するのか、交通面の話も含めて考えなければならない時は来ると思っています。	
11	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	先生が忙しすぎて、教頭先生が担任をやることもあると聞いており、働き方改革は切実な課題かと思います。サポートスタッフが入るのもすごくいいと思いますし、小・中学校に相談員という形で、子どもと積極的にコミュニケーションを取り、相談に乗る人を設置したらいいのではないでしょうか。スクールカウンセラーという制度もあると思うのですが、勤務時間も限られていますので、もっと子どもたちに身近な存在の方が必要ではないかと思います。	教員の倍率はどんどん下がっており、そもそも先生になりたい人が減っていることは大きな問題です。やはり先生という仕事が魅力的であることを、若い世代に知ってもらわないといけません。私の周りにも、最初は先生を志望していたけど、結局は教育系の民間会社に就職した方がたくさんいます。教育に対して思いを持ってる方が現場に行きづらいという状況はすごく残念です。芦屋市では先生を採用できませんので、県に声を届けなければいけません。まず芦屋から、根本的に働き方改革を進め、県まで波及させていきたいと思っています。	
12	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	芦屋市は市長が公教育にすごく力を入れてくださっている、というので大きく希望を持っています。これからどういう取組をしようとしているのかを、私たちにも分かりやすく、ホームページなどにまとめていただきたく思います。予算の問題もありますし、時間もかかるのは分かるのですが、スピード感を持ってやっていただかないと、子どもたちはどんどん大きくなるんですよね。私立中学校に勝るような公教育をしていかないと、芦屋も変わらないと思いますので、心の片隅に止めておいていただきたいです。	教育の話だけではなく、市民に向けどう発信するかはすごく大事だと思っています。市は、毎年３月頃に次年度の予算が決まり、そこで、１年間に使うお金の使い道がほとんど決まっていますので、１年の途中で新しいことを打ち出すことは難しい環境にあります。基本的に市から公式で「今後こうしていきます」という内容はその当初予算の話か、もしくは計画しかありません。８月に出した教育大綱などはまさにビジョンや計画といったものです。ただ、それでは市民からすれば今後の見通しが立たない、というのもよく分かります。何かの合間、合間で「今こういうことを考えています」といった発信は、役所の公式な発信ではなく、髙島個人の発信でもそれに資するのであれば、個人でできる話なので考えたいと思っています。	
13	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	市長に一番お願いしたかったのが、もっと市民の力を使ってくださいということです。私は市民活動をして知ったのですが、芦屋には海外経験がある方がとても多いです。また、令和４年度だけでも300人も外国人の方が増えています。もっと海外経験のある市民の力を使っていただきたい。海外になると日本と全く基準が異なり、目から鱗なことばかりですので、そういうこともどんどん取り入れていただきたいと思います。個に向き合い、才能を伸ばしていくことをぜひしていただきたいです。	私としてもぜひやっていきたいと思いますし、ぜひ行政を待たずに始めていただけたらとても嬉しく思います。もちろん行政が旗を振って「ボランティア募集します」とすると市民から見ても関わりやすいと思いますが、一方で、行政側は様々な段階を踏まないといけません。職員も忙しくしており人も減っている中、どうにかやっている部分もありますので、全く新しいこととなるとどうしても多くのエネルギーが必要です。逆に「私たち勝手にやるけど、ここの部分は行政しかできないからサポートしてね」と言っていただいた方が我々としては動きやすいです。	
14	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	東京大学公共政策大学院と協定を結ばれたということですが、今後はどういった取組を考えておられるのでしょうか。また、東京大学公共政策大学院は他の自治体でも同様の取組を進めているのでしょうか。	東京大学公共政策大学院が自治体と協定を結ぶのは初めてだと聞いています。教育現場の働き方改革は文科省も認識している全国的な課題ですので、東京大学公共政策大学院に集まる様々な情報をうまく生かしていきたいと思います。また、財源の話にも繋がりますが、自治体の施策は一度始めると、やめ時が難しく、事業が増え続けていった結果財源がなくなるパターンが多いので、ある施策の効果をどう測るのかといったところなどを一緒にできればと思っています。最近、EBPMといった、エビデンスを基に政策をつくるという話がありますが、やはり定量的な評価は一定大事になってくると思いますので、効果測定についてはぜひ協力していければと思っています。	
15	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	職員の方との対話集会もしていただけないかと思います。自由にものを言える関係性がないと何も始まらないですので、こういった対話集会があって、お顔を見たことがある方だったら相談しやすいですし、職員も何かお願いなどしやすいかもしれません。老若男女で一緒に話せるような形だとよりよいコミュニケーションがとれると思います。	今は「こえる場！」というような、地域団体とや企業と市が協働しようという場もありますので、そういったものの設えも考えなければいけませんが、面白い取組かもしれないですね。ありがとうございます。	

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
16	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	学校ごとにアンケートをとったりしますが、それは学校の中で集計され、ざっくりした結果だけが教育委員会に報告されています。教育委員会は保護者の意見を全部見ているわけではなく、「おおむね良好でした」などの概要だけを確認するといったことを聞いたのですが、一つひとつの意見をもっと聞いてほしいと思います。	学校の課題解決は、学校がメインでやっていますので、市役所にはその報告のみしているのだと思います。市役所としての全体把握は、市が行うアンケートになります。アンケートの話で、例えば全市的なアンケートをやる場合、お忙しいからだと思うのですが、回答率は高くありません。できるだけWebでも回答できるようなものも最近増やしていますのでご協力ください。Web回答ですと市側の負担減にも繋がりますので、ぜひお願いできればと思います。	
17	10月28日(土) 潮芦屋交流ｾﾝﾀｰ	市長はいろいろな政策を考えておられますが、その財源はどうするのでしょうか。新しく投入するか、配分を変えるかの２つだと思うのですが、どう考えておられますか。	ちょうど決算が終わったところですが、芦屋の財政の状況を見た際、20億ほどの実質黒字が出ている状況です。黒字が出た場合、民間では株主還元やボーナスを出したりするわけですが、市は当然株主はいませんし、職員にボーナスも出せません。結局、市民サービスに使っていくというのが基本的な考え方ですが、まだうまく使い切れていない部分もあるのではと考えます。ただ、財政予測はとても難しく、実質黒字をゼロに近づけることも難しいのですが、頑張りたいと思います。結局、財源を確保するにはどう配分して、どう事業をやめるかという話です。効果があまり出ていない事業などを精査していき、少しずつ捻出していきたいと思います。大前提として、芦屋は震災があり、借金を返さなければならない時期がありましたので、財政的に余裕のある自治体ではありません。少しずつやり繰りしていこうと思っています。	
1	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	教育大綱を見させていただきましたが、STEAMS教育を実践するにあたり、何か設備的な面を進めていこうと考えてられているか教えていただけますか。	「STEAMS教育」という言葉を聞かれたことがある方はどのぐらいいらっしゃるでしょうか。よく知られている話ではないと思うので少し説明します。学校は国語の授業が始まると、国語のことだけやりますよね。しかし、現実の社会で生きていく中で、今は国語の時間です、といった話はありません。学んだことを自分の中に組み合わせながら使っていく必要があります。ですので、教科を分断するのではなく、教科を飛び越え、横断した学びをやっていきましょうというのがSTEAMS教育です。例えば、体育と理科の授業は全然繋がっていないようにみえますが、サッカーをするためには体の使い方が大事ですので、理科の人体の授業と繋がっていますよね。そういう繋がりを重視して学べるようにしていきたいということを教育大綱には記載しています。ですので、新しい設備を設けるというよりは、授業の中身の部分を変えていきたいと考えています。	
2	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	私立大学に通っていますが、教育費について、市から助成があるのかお聞きしたいです。	いわゆる無償化の議論というのは、給食費なども含めてたくさんあります。子育てをしている方々からすると無料になるのは嬉しいことだと思いますが、一方で、お話にもあったように財源の問題があります。今回、こども医療費の制度拡充に踏み切ったのは、医療費が一番予期せぬ出費になる可能性があるからです。保育料や教育費はある程度いくらかかるかの予測が立ちますが、医療費の場合は難しい。ですので、その部分にまず支援をするのが大事だという考え方です。 他はどうするのかという話ですが、例えば、大阪は高校の授業料無償化を思い切ってやっていますが、芦屋市が同じことをやろうとしても正直のところ難しいです。行政としては、教育費用は、まずは公立の小・中学校の教育の水準を上げることが行政としては望ましいと思っています。 保育料について、先日の対話集会でも保育士の方の働き方改革をしないといけないという話になりました。実は芦屋市の保育料は、国の基準と比べ税金をかけて引き下げていますが、「値下げ幅を少し戻してもいいですか」という話をしたら、多くの方が「いいのではないか」と答えてくださりました。保育料の負担減をする前に、大きな事故が起こってもおかしくない現場の状況を変えるために、しっかりと環境の改善を考えていかないといけない状況に差し掛かっていると思いますので、まずはそちらに取り掛かろうと思っています。	
3	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	保育料が７万少しで結構高いです。仕事もありますので、迎えに行ったら６時ぎりぎりです。15分でもいいから定額内で預かってもらえれたら。		
4	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	保育園に預けてから、保育料の無償化が始まるのが、半年か１年ほど時差があったのですが、その期間中の負担がすごく辛く思いました。		
5	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	保育料の件もですが、医療費助成の件は来年内に考えていただきたいと思う一方で、市民から理解を得るのが大事かと思います。社会的には皆さんに税金の負担をしてもらわなければいけないと思いますので、皆さんに理解していただくための戦略をこの場で話し合えたらと思います。		
6	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	ふるさと納税のように、市に寄附をすることで保育料助成の財源にすることはできないののでしょうか。それができるのであれば、保育料で払うより寄付金で払った方が寄付金控除を受けられるのでいいなと思いまして。使途を定めたような納税の仕方ができれば。と。	一言でいうと、できます。返礼品はありませんが、使途を決めたふるさと寄附は居住地の自治体にもできるルールになっています。ふるさと寄附は、例えば教育や保育に使って欲しいと使途を決めていただくことができるルールですのでご活用ください。皆さん税金は、市・県・国へ納めていると思いますが、芦屋市民が芦屋市にふるさと寄附をすると、全額市に入ってきます。芦屋市はふるさと納税では、制度によって毎年7,000万円のうち半分は返礼品代や送料などの経費ですので、3,500万円の入りに対して、10億円が出ています。もしふるさと寄附がなくなれば、保育料や給食費も減らせるかもしれません。それぐらいお金が減ってるいますので、「ふるさと寄附をするな」とは言いませんが、ぜひ芦屋市に納税いただければとても嬉しく思います。	

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
7	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	ふるさと納税について、市長はどう考えていらっしゃいますか。ふるさと納税する額が大きければ大きいほど徳をする、お金持ちが優遇されている制度ですが、それに対して疑問を持たない人がほとんどです。制度が変に暴走を許してるところがあると思います。	私はこの状況はよくないですし、変えたほうがいいと思ってます。これは芦屋市長としてのポジショントークというよりも、そもそも公的なところに本来納められる税金が減るという話は個人的にもよくないと思っていました。一方で、ある特定の施策に限定して税金を納められる部分については、いいと思っています。自分の納めた税金は普通、何に使われるのか分からないわけですが、このルールを活用すれば、自分の税金の使い道を指定できます。そういった点においては、さらに良い形になればと期待しています。	
8	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	明石市は前市長が12年かけてやられたことが成功し、人口も増え、若い世代が移住し、すごくいい方向に発展しています。芦屋市もそういう自治体を参考にしていただきたいです。財源がないといっても、実際には、無駄を省いて捻出できた、ということがよくありますが、市長として、芦屋市の無駄な部分を保育や教育に回すためどんなことを考えていらっしゃいますか。	明石市と芦屋市で根本的に違うことが２つあります。まず１つ目、財政の話ですが、芦屋は阪神淡路大震災を経験しましたので、これまで相当大きな借金を減らしてきました。そのため、行政改革に力を入れて事業を精査し、無駄を絞った上で今の行政運営を行っているのが現状です。ただし、全員が無駄だと思わなくても、時代遅れな事業や、役割を終えたような制度は幾つかあるかと思っていますので、その部分は次年度予算で見直しをかける予定です。２つ目の違いとしては、家賃の問題です。家賃・物価の問題で、場所が安く住みやすい場所があるかという話ですね。明石市の場合、比較的安い家賃でほぼ通勤の時間は変わらず、広い家に住めるということで２人目の子供を産むタイミングで近隣から移住という方がすごく多いようです。ただ、状況が違いますので、必ずしも芦屋市に全部生かせるとは思っていません。芦屋市の場合、すべての人が若い世代に来てほしいと思っているかというと，そうでもない人もいるというのが事実です。そういう意味では、まずは芦屋の子どもたちの環境をよくしていくことに焦点を絞ってやりたいと思っています。それが例えば、教育ですね。その結果「芦屋っていいね」と言って、自分が大きくなった後の原体験として、他の場所から来てくださったり、子育てのために帰ってきたりした、という方が増えればいいと思いながら施策をやっているところです。	
9	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	この対話集会はとてもよい会だと思いますが、お忙しい中で頻回に開催することは難しいと思いますので、今後例えばZoomでやってみるとかしてはいかがでしょうか。また、市長のお考えなど、教育大綱に記載できなかった部分などを知ることができるコラムなどはあるのでしょうか。インスタグラムは見ていますが、他にお考えが分かるものがあれば教えてください。	色々な開催方法があると思います。他市の市長さんではYouTubeライブをしたりしていますので、オンラインで開催もいいかもしれませんね。私の思いは、今回資料には概要の教育大綱をつけていますが、これとは別に「本文」があります。市ホームページなどにも掲載していますので、ぜひご覧ください。この度の芦屋市の教育大綱は、想いを込めて全部自分で書きましたので、目を通していただければ嬉しいです。また、SNSやnoteなどでも私の思いは発信していますので、ご覧ください。	
10	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	ある程度世帯収入があると、どうしても子ども医療費補助の対象外になりますので、どうしてもふるさと納税で回収しようとしてしまうところはあります。市から支援してもらえているという実感があると、ある程度還元しなければと思えると思います。ホームページの情報だけを見ると、芦屋市は妊娠・出産・育児に関しての情報が少ないんです。新生児聴覚検査の助成も始まっていますが、それも「所得制限を設ける」と、お金があるんだったら自分たちでしろというのがどうしても見え隠れしてしまい、それだったら他市で出産・子育てしようと思ってしまいます。	ふるさと寄附をするというのは、いわゆる合理的選択ですので、それに対して市がお願いをするんだったら、それなりのことをしてもらわなければ、というのはその通りだと思います。頑張りたいと思います。	
11	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	産後ケアについて、神戸市は金額が芦屋に比べて安価でした。出産前の健診助成も神戸市の方が多いですし、芦屋市は予定日になるまでに助成券がなくなってしまいます。国から指示のある基本的な健診は助成対象ですが、エコーや血液検査などは対象外です。また、産後の１か月健診や２週間健診のお金も払った記憶があります。助成券という回数制限のある制度自体がナンセンスで、全部公費にして欲しいです。予定日から遅れるほど、自費が増えていくリスクがある不安もあり、出産しづらい環境だと思います。	妊婦検査助成のことは多くの人に言われるのですが、以前調べたところ差はなかったと思いますし、券の枚数も一緒だったと思います。一度、改めて担当課に確認してみます。	産後ケア事業については、本年４月より自己負担額を引き下げるとともに対象も産後１年までに延長するなど利用いただきやすい制度に改めました。 妊婦健康診査助成については、神戸市120,000円、芦屋市は106,000円の助成となっていますが、国が示す望ましい健康診査の受診回数分は助成しています。
12	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	教育はすごく大事だと思っていますが、市長のいうオーダーメイドの教育をするというのは、どうしても効率が悪くなると思うんです。それでも、その方がいいと考えられる理由があればお聞きしたいです。	学校で何を学ぶかは学習指導要領で決まっていますし、標準時間という各教科の授業時間の目安も示されています。最低限何をどのくらい教えるのかが決まっており、それを守るのは絶対に必要だとは思いますが、小・中学校の９年間でより大事なのは、いかに知識を入れるかではなく、「学ぶのって意外と面白いな」というモチベーションを持てるかどうかだと思っています。好きなことがあれば時間を忘れて没頭しますよね。そうならないということは、やはり「学びの面白さ」に気づけてないか、自分の好きなことへ「学び」が繋がっているということを知らないからだと思います。そもそも意欲がないと、入る知識も入らないと思いますので、まずそのモチベーションの部分に、重点を置いてやっていきたいと思います。	

当日の主なやりとり				備考 （補足説明など）
		市民の発言	市長の発言	
13	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	自身の子どもが、少し学習が難しくなってきて、学校に行きづらいと思っています。やはり、学習が難しくなってきたときに、学びの楽しさをいかに子どもに伝えていくかが大事だと思います。難しいことだけを詰め込まれると、やっぱり子ども萎えてしまいますので、どういうアプローチがいいかは分かりませんが、楽しいという気持ちで学校に行けるよう授業の中でうまく組み込んでいただければと思います。	授業が始まる小学校１年生の時に、自分が好きなことが何か、自分が何に興味があるか、きちんと自分に向き合える時間を作ることが大事だと思っています。先ほどの話にもありましたが、一人ひとりの興味と学びをうまく繋げていきたいと思っています。	
14	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	「あゆみ」についてですが、去年から「懇談でお伝えしています」と書かれるだけになってしまいました。先生が「あゆみ」を作る時間も大変というのは分かるのですが、だんだん白紙になり、寂しくなってきたなと思います。それであれば、子どもが見て、分かりやすく「先生、こんなとこ誉めてくれてるんだ」とか、「こんなとこ頑張ってると思ってくれてるんだ」というところが伝わるものがあればと思います。	「あゆみ」の掲載については、懇談で伝えているからという話もそうですが、連絡帳などの普段の声がけをその分大事にしてやっていこうという思いからです。働き方改革の側面も当然あります。私も「あゆみ」を書いてもらって嬉しかった思い出もありますので、何か寂しさを感じることはよく分かるのですが、それ以外の普段の場面の中で、直接子どもたちや保護者の方にいろいろな形で伝えることをやっていこうという試行錯誤の中の１つの形だと思っていただければ嬉しいと思います。	
15	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	子ども自身が自分の権利について学ぶことが大事だと思っていまして、芦屋市でも広めたいと思い、先日、市役所に伺って子どもの権利についてどういう取組をしているか尋ねました。関連資料を小・中学校で配布するそうですが、私立学校に通うお子さんも多い中、芦屋市の子どもたちが自身の権利を知る機会がすごく少ないと感じました。自分たちの意見を聞いてくれる大人がいる、交流の場があることを子どもたちはまだあまり知らないのではないかと思っています。子どもたちのウェルビーイングや自己肯定感を上げていくような機会の創出についてはこれからどう取り組んでいかれますか。	子どもの権利の４つの原則の１つに「参画する権利」というものがあります。自分の育つ環境や、学ぶ環境について自分たちで意見を言える、といった権利ですが、芦屋市はまだ弱いと感じています。ですので、それこそ「あしふく」や各中学校を周り、できるだけ18歳未満の子どもたちと直接話をするようにしています。広報あしやでも権利条約について取り上げたり周知に取り組んでいます。ただ、啓発も大事ですが、それよりも「自分の声を聞いてもらえた」とか、「自分の声で社会が変わったな」というのを認識したり、体験できた１回の成功体験が一番大事だと思っています。今、中学校では、自分たちで校則を変えよういろいろと考えて動いてくれていますが、小さくても１つの成功体験を創っていくことが最初にやるべきことかと思います。そうして「あの中学校って、中学生が声を上げて変わったらしいよ」というのが伝わると、ほかの学校に波及していくと思いますので、期待しています。	こどもの権利条約の冊子については、市立小学校6年生、市立中学校3年生のほか、市内の認定こども園・保育所・幼稚園に通う5歳児の保護者向けの冊子を、私立園を含めて配布しています。授業で教材としての利用もあると聞いております。なお、同じ内容は市ホームページからもご覧いただけます。
16	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	「ちょうどの学び」は結構抽象的な言葉で、伝える側の先生たちだけが追求しても叶わないと思いますので、自分が今どの地点にいるのか、この学習が自分にとって難しいのか、楽しいのかを子どもたち自身が知ることが大事だと思います。そのために先生同士や子ども同士の対話の中で現状を知り、子どもたちと先生たちがすり合わせることで、「ちょうどの学び」が実現していけるのではないかと思います。また「学ぶ楽しさ」というところで言うと、自分が興味を持てる範囲、簡単過ぎずチャレンジングな難易度のものを与えてもらえば子どもたちが本当に頑張れると思います。	本来、テストの役割は「ちょうどの学び」を見つけることだと思っています。できなかったところを自分で振り返り、今後に繋げていくためのものですが、内申点などもありますし、どうしても自分の成果を誰かに認めてもらうためのツールになってしまっています。もっと点数のためではなく、自分の興味のために、自分の未来のために学ぶことができるような施策をやっていきたいと思っています。	
17	10月28日(土) 朝日ケ丘集会所	かつての芦屋ブランドである、文化と教育のまちということをもっとアピールしていただきたいです。また、子育てに関しては、子どもが安全に過ごせるまちを創るというところも含まれると思いますが、芦屋市はやはり細い道が多いですし、そんな道ですごいスピードで走っている車もいます。芦屋警察の方にはぜひ取り締まっていただきたいですし、芦屋市内は時速30kmで走るなどのローカルルールを作っていただきたいと思います。	以前、図書館でやっている自由研究の展覧会で、小６の子が通学路の研究をしていました。まず子どもの色々な習性を本を読んだり分析したりする上で、問題点として車がスピードを出し過ぎだと言っていました。車の速度をストップウォッチで測り、赤信号のときは制限速度を守るけれど、青信号のときはスピードを出し過ぎだということに気づき、解決のためにこうしたらいいんじゃないかという提案と、我々小学生の方もこういったことをやります、という結論を出してくれていました。スピードの出し過ぎが多いというのは小学生も気づいている、皆が思っていることだということはもっと発信していけたらと思います。	自動車のスピードを抑制するために、啓発のための巻シートの設置など必要に応じ、警察等と連携し対応しています。